

令和5年度卒業生への卒業時アンケートの概要報告

【目的】

・本調査の目的は、本学の教育をより良いものとする目的で、令和5年度卒業生に対してアンケート調査を行った。

【方法】

1. 調査対象
  - ・令和5年度に卒業する卒業生。
2. 調査方法
  - ・4年生全員にアンケート調査の依頼を複数回実施し、回答を依頼した。

【結果】

問1. 回答学生

学部	回答者数	対象者数	回答率
体育学部（全体）	553	601	92%

問2. 仙台大学の4年間で一番何に力を注ぎましたか？

項目	1. 勉学	2. 資格取得	3. 部活動	4. 友人づくり	5. その他学内での活動	6. 学外での活動	合計
回答数	69	85	260	15	12	112	553
割合	12.5%	15.4%	47.0%	2.7%	2.2%	20.3%	100.0%

分析結果：昨年度同様に「部活動」と回答した学生の割合が最も多かった。昨年度と比較すると「勉学」に力を注いだと回答した学生が5.9%減少し、「学外での活動」と回答した学生が7.8%増加した。魅力ある授業を展開することで学業に注力する学生の割合向上を目指すとともに、部活動や学外活動のための環境整備をおこなうことが学生の満足度の向上につながると考えられる。

問3. 仙台大学の教育（教育課程）で成長できた実感はありますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	225	231	77	20	553
割合	40.7%	41.8%	13.9%	3.6%	100.0%

分析結果：「そう思う」と「ややそう思う」を合計すると71.8%となり、卒業生の一定程度が施設、設備に満足していたことがうかがえるが、昨年と比較すると11.6%減少した。教育課程や授業内容について、より良いものを目指し検討していく必要があると考えられる。

問4. 仙台大学の施設・設備に満足していますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	166	231	120	36	553
割合	30.0%	41.8%	21.7%	6.5%	100.0%

分析結果：「そう思う」と「ややそう思う」を合計すると71.8%となり、卒業生の一定程度が施設、設備に満足していたことがうかがえるが、昨年度と比較すると10.7%減少した。施設・設備に満足していない割合は二年度続けて増加しており、施設・設備の更新、整備等、適切に対処していく必要がある。

問5-1. 仙台大学での4年間の「あなたの目標」は何でしたか？

項目	1. 学業	2. 資格取得	3. 部活動	4. 友人作り	5. 留学	6. ボランティア	7. 学外での活動（アルバイト等）	8. 目標ができなかった	9. その他	合計
回答数	92	168	194	16	4	2	34	21	22	553
割合	16.6%	30.4%	35.1%	2.9%	0.7%	0.4%	6.1%	3.8%	4.0%	100.0%

分析結果：前年同様「部活動」、「資格取得」、「学業」の順で多く、全体の約82%を占めた。今後は「部活動」の所属の有無にかかわらず「学業」や「資格取得」に向けての支援の充実が必要であると考えられる。

問5-2. 仙台大学での4年間であなたの目標は達成できましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	220	234	71	28	553
割合	39.8%	42.3%	12.8%	5.1%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答が全体の82.1%（昨年度85.1%）を占め、昨年度より微減であった。「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」の否定的な回答が全体の17.9%（昨年度14.6%）と微増であった。学生へのきめ細やかな支援体制が必要であるとされる。

問6. 仙台大学に入学して良かったと思いますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	246	226	62	19	553
割合	44.5%	40.9%	11.2%	3.4%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」が全体の85.4%（昨年度93.4%）を占めた。「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」の否定的な回答が全体の14.6%（昨年度6.7%）と倍増であった。学生支援体制の見直しや充実を検討する必要がある。

問7. 専攻分野に関する専門的・応用的な知識や技術を身につけることはできましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	227	260	50	16	553
割合	41.0%	47.0%	9.0%	2.9%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」が全体の88.0%（昨年度93.3%）を占めた。「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」の否定的な回答が全体の11.9%（昨年度6.7%）と倍近い増加となった。学生への教育の見直しや支援の充実を検討する必要がある。

問8. 大学で専攻した分野が果たす役割を深く理解することはできましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	233	256	52	12	553
割合	42.1%	46.3%	9.4%	2.2%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が88.4%であり、令和4年度と比べ6.3ポイント下落した。大幅な下落に見えるが、令和2年度から3年度にかけて9.1ポイントと大幅に上昇し（84.2%→93.3%）、令和4年度も引き続き上昇傾向にあったことから、令和5年度卒業生については、この上昇をもたらした取り組みの効果が薄れてしまった可能性がある。この点については、より詳細な検証が必要である。

問9. 専攻分野の実践の場において、知識・技能を相手に的確に伝える力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	209	255	70	19	553
割合	37.8%	46.1%	12.7%	3.4%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が83.9%であり、令和4年度と比べ8.9ポイント下落した。本項目についても問8と同様に、令和2年度から3年度にかけて大幅に上昇し(80.0%→91.9%)、令和4年度も引き続き上昇傾向にあったことから、令和5年度卒業生については、この上昇をもたらした取り組みの効果が薄れてしまった可能性がある。これについても、より詳細な検証が求められる。

問10. 多様な人々と円滑な人間関係を築く力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	290	175	59	29	553
割合	52.4%	31.6%	10.7%	5.2%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が84.1%であり、令和4年度と比べ10.9ポイントと大幅に下落した。これは、コロナ禍以前である令和2年度卒業生の87.0%をも下回る数値であった。令和5年度卒業生については1・2年次(令和2・3年度)がコロナ禍に当たり、入学直後の重要な時期に人間関係を構築する機会が十分に与えられていなかったため、その後も悪影響を及ぼしたと考えられる。この点については、部活動所属の有無を含めたより詳細な分析が必要である。

問11. 指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、適切にコミュニケーションできる力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	245	245	48	15	553
割合	44.3%	44.3%	8.7%	2.7%	100.0%

分析結果：肯定的回答(そう思う・ややそう思う)が令和4年度の95.9%(そう思う54.5%、ややそう思う41.4%)から令和5年度は88.6%(そう思う44.3%、ややそう思う44.3%)へと7.3ポイント減少した。一方、否定的回答(全くそう思わない・あまりそう思わない)は4.1%から11.4%へと7.3ポイント増加した。特に「そう思う」の大幅な減少(10.2ポイント)と「ややそう思う」の微増(2.9ポイント)が特徴的である。この変化は、1年間で学生のコミュニケーション能力に対する自己評価がより慎重になったことを示唆している。就職活動を通じて社会が求める能力水準を認識したこと、あるいは専門知識の深化に伴い自己評価の基準が厳格化した可能性が考えられる。

問12. 多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探求し、主体性を持って課題解決に取り組む力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	245	243	48	17	553
割合	44.3%	43.9%	8.7%	3.1%	100.0%

分析結果：肯定的回答が令和4年度の93.9%(そう思う51.4%、ややそう思う42.5%)から令和5年度は88.2%(そう思う44.3%、ややそう思う43.9%)へと5.7ポイント減少した。否定的回答は6.1%から11.8%へと5.7ポイント増加した。「そう思う」の7.1ポイント減少と「ややそう思う」の1.4ポイント増加が見られる。この1年間で、学生の課題解決能力に対する自己評価がより控えめになったと解釈できる。背景には、大学での学習や社会との接点を通じてより複雑な課題に直面し、自己の能力をより客観的に評価するようになった可能性がある。

問13. 大学からiPadの貸与を受けて良かったと思えますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	417	100	20	16	553
割合	75.4%	18.1%	3.6%	2.9%	100.0%

分析結果：肯定的回答が令和4年度の94.3%(そう思う72.4%、ややそう思う21.9%)から令和5年度は93.5%(そう思う75.4%、ややそう思う18.1%)とほぼ横ばいである。否定的回答も5.7%から6.5%とわずかな増加にとどまっている。注目すべきは「そう思う」の3ポイント増加と「ややそう思う」の3.8ポイント減少である。この1年間で、iPadの貸与に対する学生の評価がより強く肯定的になったと言える。要因としては、iPadの活用スキル向上、授業でのiPad活用の増加、社会のデジタル化進展による活用スキルの重要性認識の高まりなどが考えられる。

問14. 本学のオンライン授業の内容はわかりやすかったですか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	210	238	83	22	553
割合	38.0%	43.0%	15.0%	4.0%	100.0%

分析結果：肯定的回答が令和4年度の84.4%(そう思う37.8%、ややそう思う46.6%)から令和5年度は81.0%(そう思う38.0%、ややそう思う43.0%)へと3.4ポイント減少した。否定的回答は15.7%から19.0%へと3.3ポイント増加した。「そう思う」はほぼ変化がない一方、「ややそう思う」が3.6ポイント減少している。この1年間で、オンライン授業の内容に対する評価がやや低下したと解釈できる。要因としては、対面授業の増加によるオンライン授業との比較評価の変化、オンライン授業への慣れによる期待値の上昇、あるいはより高度な内容のオンライン化に伴う理解度の変化などが考えられる。

総合分析

本分析で対象とした令和5年度卒業生は、令和2年度に入学後、令和5年5月の5類移行まで学生生活のほとんどをコロナ禍で過ごした学生である。本学の教育課程や施設・設備への満足感、知識・技能の習熟、人間関係の構築、課題解決能力の向上といった点で、前年度卒業生よりも肯定的な評価の減少がみられた。これは、1年次からコロナ禍を経験したことで、入学直後の重要な時期に人間関係を構築する機会が十分に与えられていなかったことや、特にコロナ禍初期のオンライン授業導入時に授業形態が急激に変わったことにより、教員のオンライン授業に対する準備が不足し、1年次の基礎教育における教育効果を十分にあげることができなかったことなどが影響したと考えられる。一方で、問13にあるように本学で実施したiPadの貸与には非常に多くの肯定的意見が寄せられており、オンライン授業の拡充に役立ったと考えられる。

これらの情報をもとに、肯定的意見が昨年度よりも減少した項目については、今後の改善が必要となるだろう。